

令和2年度「しがはいすくーるおすすめ本50選」優秀作品一覧

優秀作品50編(書籍タイトル数47)
応募総数1,997編(21校)

(著者名の50音順に並んでいます)
(氏名の有無は本人の希望によります)

No	書名	著者名	紹介者	学校名	学年
1	午前0時の忘れもの	赤川 次郎	伊藤 菜々子さん	草津高校	3
2	どこよりも遠い場所にいる君へ	阿部 咲子	松本 萌花さん	大津高校	3
3	植物図鑑	有川 浩		草津高校	3
4	なぜ僕らは働くのか	池上 彰 監修/佳奈 漫画/モドロカ 画	郷田 真佑さん	守山高校	2
5	サマーウォーズ	岩井 恭平 著/細田 守 原作	久野 明輝さん	甲南高校	2
6	LGBTのひろば	大塚 隆史/城戸 健太郎 編	楠原 夢葉さん	大津高校	3
7	人類VS感染症	岡田 晴恵	寺田 拓矢さん	草津高校	3
8	僕は何度でも、きみに初めての恋をする。	沖田 円	赤松 緩奈さん	国際情報高校	1
9	夜のピクニック	恩田 陸	大森 裕大さん	国際情報高校	1
10	5分後に意外な結末 ②青いミステリー	学研教育出版 編	井上 未垂さん	長浜北星高校	1
11	聲の形	川崎 美羽 著/大今 良時 原作/ 吉田 玲子 脚本		守山高校	2
12	ちょっと今から仕事やめてくる	北川 恵海	木下 巧流さん	草津高校	3
13	ウチら棺桶まで永遠のランウェイ	Kemio	吉岡 悠妃さん	甲南高校	2
14	アリス殺し	小林 泰三 著/丹地 陽子 装画/ 藤田 知子 装幀	木村 志穂さん	守山高校	1
15	星の王子さま	サン＝テグジュペリ 著/河野 万里子 訳		能登川高校	2
16	新訳 星の王子さま	サン＝テグジュペリ 著/倉橋 由美子 訳	大籠 夏鈴さん	草津高校	3
17	スマホを落としただけなのに 囚われの殺人鬼	志駕 晃	二矢 侑樹さん	長浜北星高校	1
18	スマホを落としただけなのに	志駕 晃	秋永 光翼さん	守山高校	1
19	バムとケロのもりのこや	島田 ゆか	菅沼 莉央さん	甲南高校	2
20	小説 Fukushima50	周木 律	板井 みづきさん	能登川高校	1
21	インスタ映えする戦国時代	スエヒロ	川嶋 彩加さん	守山高校	2
22	君の臍臓をたべたい	住野 よる	久米 彩稀さん	守山高校	1
23	君の臍臓をたべたい	住野 よる	垣見 ほのかさん	国際情報高校	1
24	か「」く「」し「」ご「」と「	住野 よる	尾畑 凜さん	国際情報高校	1
25	砕け散るところを見せてあげる	竹宮 ゆゆこ	石井 愛夏さん	守山高校	1
26	友人キャラは大変ですか？	伊達 康	矢野 秀典さん	長浜北星高校	2
27	ホームレス中学生	田村 裕		草津高校	3
28	優しい死神の飼い方	知念 実希人	西山 杏子さん	彦根翔西館高校	1
29	優しい死神の飼い方	知念 実希人	松垣 夢奈さん	守山高校	2
30	2分間ミステリ	ドナルド・J・ソボル/武藤 崇恵 訳	下田 夢見さん	長浜北星高校	1
31	こころ	夏目 漱石		大津高校	3
32	店長がバカすぎて	早見 和真	西村 百々花さん	守山高校	1
33	ぼくたちの家族	早見 和真	田畑 愛優さん	守山高校	1
34	マスカレード・ホテル	東野 圭吾	小椋 寛太さん	守山高校	1
35	パラレルワールド・ラブストーリー	東野 圭吾	久保 結菜さん	国際情報高校	2
36	フォルトウナの瞳	百田 尚樹		能登川高校	2
37	死を見る僕と、明日死ぬ君の事件録	古宮 九時	金子 皓史朗さん	守山高校	1
38	15歳のテロリスト	松村 涼哉	西川 えみりさん	守山高校	1
39	三日間の幸福	三秋 縋		能登川高校	2
40	三角の距離は限りないゼロ	岬 鷺宮	長谷川 朝洋さん	守山高校	1
41	夢をかなえるゾウ	水野 敬也	端山 菜南さん	守山高校	1
42	向日葵の咲かない夏	道尾 秀介	川森 咲花さん	長浜北星高校	2
43	豆の上で眠る	湊 かなえ	尾崎 莉那さん	八幡商業高校	1
44	豆の上で眠る	湊 かなえ	中西 真唯さん	国際情報高校	2
45	少女	湊 かなえ	奥田 晴菜さん	守山高校	1
46	リバーズ	湊 かなえ	加藤 奏さん	守山高校	1
47	続ける脳 最新科学でわかった！必ず結果を出す方法	茂木 健一郎	藤本 千穂さん	守山高校	2
48	ジョーカー・ゲーム	柳 広司	谷川 隼さん	守山高校	2
49	ぼくは勉強ができない	山田 詠美	李 佳音さん	守山高校	1
50	なんくるない	よしもと ばなな	西岡 潤之介さん	長浜北星高校	2

令和2年度 「しがはいすくーるおすすめ本 50 選」優秀作品

(著者名の 50 音順に並んでいます)
(氏名の有無は本人の希望によります)

1 『午前0時の忘れもの』 赤川 次郎 著 集英社文庫

この作品は、生と死を題材にした本です。突然の事故で失った恋人や肉親からのメッセージを信じ、集まった人々が生と死に向き合い、それぞれの愛の形を見つけていく感動のミステリアス・ファンタジーです。生と死という重苦しいテーマですが、コメディや恋愛の要素も含まれており、読みやすいので真面目な話が苦手な人にもおすすめです。いまだ身近な人の死を体験したことがなくても実際に自分の身に起こったら…と考えさせられます。

(草津高校3年 伊藤 菜々子さん)

2 『どこよりも遠い場所にいる君へ』 阿部 曉子 著 集英社オレンジ文庫

「神隠しの入り江」に倒れていた少女、七緒が、心に傷を抱えた主人公、和希を光りへと導く。空想の恋愛物語とされているが、それ以上に「学ぶ」ことの多い作品である。「人間」の持つ善悪、「普通」とは一体何か、「罪」が与える悪意。読みながら、自分の中にいくつもの新しい観点が生まれていく。日常生活で見えなかった考えが、具体化されていく。きっと読み終える頃には、世界が違って見えるだろう。

(大津高校3年 松本 萌花さん)

3 『植物図鑑』 有川 浩 著 KADOKAWA

何も変わらない、同じ毎日を過ごしていた主人公がある日、「お嬢さん、よかったら俺を拾ってくださいませんか?」と言ってきた素性も知らない男を拾ったことによって変わっていく日常の物語です。物語に出てくる知識や言葉が印象に残ります。二人が一緒に過ごしていく日々により心が温まり、少し切なさもあって読めば読むほど感情が豊かになります。この物語を読めばきっと沢山の人が日々の大切さや身近な人の大切さを感じます。

(草津高校 3年)

4 『なぜ僕は働くのか』 池上 彰 監修／佳奈 漫画／モドロカ 画 学研プラス

私たちはどうして働くのか、何のために勉強するのか。こうした疑問や将来への不安をすんなり解消してくれる本です。時代に伴う仕事の変化や生涯にかかるお金のこと、雇用のしくみなど、この本を読めば、今まで複雑だと思っていた社会のしくみも実は単純だったと気付くでしょう。将来のことについて不安や悩みがある人に特におすすめの一冊です。自分の人生と向き合う上で忘れられない一冊となること間違いなし！

(守山高校2年 郷田 真佑さん)

5 『サマーウォーズ』 岩井 恭平 著／細田 守 原作 KADOKAWA／角川文庫

人間 vs コンピュータの、ハラハラさせるスピーディーな話の展開と、読み終えた後の爽快感が魅力。インターネット上の仮想空間が話の舞台。昔はその世界観が斬新で、読み取ることが難しかったが、この10年程で時代が話の世界に近づいていっていることに驚く。いつかコンピュータに支配される日がくるかもしれない。この本は、世界の危機に一致団結して戦う家族の姿を通して、家族の絆や人とのつながりの大切さに気付かせてくれます。

(甲南高校2年 久野 明輝さん)

6 『LGBTのひろば』 大塚 隆史・城戸 健太郎 編 日本評論社

この本はLGBT当事者の方の体験談を混じえて書かれた本です。元々、LGBTについて考えたことがなかった私ですが、手にとって読んでみると世界が広がったというか考え方の幅が広がった、という感じがしました。消えない偏見や差別の中、当事者の方がどんな思いで生きているのかというのを読んで、自分にも何かできることがあるのではないかと意識できる良い機会になる本でした。

(大津高校3年 楠原 夢葉さん)

7 『人類 VS 感染症』 岡田 晴恵 著 岩波書店 (岩波ジュニア新書)

この本には、人々が感染症や伝染病と戦ってきた歴史が書いてあります。かつて、感染症を知らない人によって、誤解を受けた人々がたくさんいました。たとえばハンセン病だということで収容所に入れられ、一般社会では死んだことにされた人々がいたそうです。ですがエリザベートという女性は患者に対して数々の慈善事業を行いました。このように患者を助けようとする人々もいたのです。人と人との命の温かさがわかる本だと思います。

(草津高校3年 寺田 拓矢さん)

8 『僕は何度でも、きみに初めての恋をする。』 沖田 円 著 スターツ出版文庫

この本は、ハナという記憶が1日しかもたない男の子とセイという両親の不仲について悩む女の子の2人がお互いを支え合うお話です。私はこの本を10回以上読むほどお気に入りの本です。その理由は自分の立場がすごく似ていて、物語を読み進めていくうちに共感することや、ハナの言葉に助けられ、頑張ろうと思えるからです。家庭のことで悩んだり、辛いことがあった時に読むとすごく助けられる1冊です。ぜひ読んでみて下さい。

(国際情報高校1年 赤松 緩奈さん)

9 『夜のピクニック』 恩田 陸 著 新潮文庫

物語の主人公は高校3年生の2人の男女。お話は2人が通う高校の伝統行事を舞台として2人の視点が綴られていく。話が進むにつれて2人や、2人の友人たちが抱えている秘密などが徐々に明るみになっていく。高校生という多様な悩みを抱える時期だからこそ、この作品はとても共感でき、自分のモヤモヤとした気持ちを代弁してくれているようにも感じられる。長い間、読み継がれ、これからも読み継がれていく、永遠の青春小説。

(国際情報高校1年 大森 裕大さん)

10 『5分後に意外な結末 ②青いミステリー』 学研教育出版 編 学研プラス

この物語は、題名通り5分くらいで読み終わるような短い話が一冊の本にいくつか入っています。でも短いからといって内容が薄い訳ではなく、短いのににもかかわらず内容が濃くゾツとしたり、不思議な気持ちになるお話です。本当に5分後、読み終えた頃に意外な結末が待っているし、短い物語なので少し読みたい時や、少しの時間でも簡単に読めて一冊読んだかのような気分になれるのでとてもおすすめです。

(長浜北星高校1年 井上 未亜さん)

11 『小説 映画 聲の形』 川崎 美羽 著／大今 良時 原作／吉田 玲子 脚本

講談社 KC デラックス

最初に、この作品は定番の主人公とヒロインが協力して苦難を乗り越えるような物語ではない。主人公とその周りの人達との間で起こるコミュニケーションの悩みを描いた物語である。現在、周りの人との人間関係で悩みを抱えている人が、たくさんいるだろう。だからこそ、この作品を一度読んでみて欲しい。読み終わった時、自分や周りの人達の嫌な部分、許せない部分を少しでも許せるようになっているだろう。

(守山高校 2年)

12 『ちょっと今から仕事やめてくる』 北川 恵海 著

KADOKAWA／メディアワークス文庫

この本は、ブラック企業で働く男性の話です。この男性は線路に飛び込もうとしたところを同級生と名乗る男に助けられて、その出会いをきっかけに生活も変化していきます。自分自身のためにも、かけがえのない人や家族のためにも、「ちょっと今から仕事やめてくる」くらいのスタンスでちょうどいい。読んでいて、痛快なシーンや楽しくてそしてちょっと切ないところもあつたりする小説なので、働く全ての人におすすめです。

(草津高校3年 木下 巧流さん)

13 『ウチら棺桶まで永遠のランウェイ』 Kemio KADOKAWA

私が紹介する本は、SNS で大人気な Kemio が出した『ウチら棺桶まで永遠のランウェイ』です。この本は Kemio の小さい頃からの生き方が書かれています。幼い頃から女の子向けの物が好きだったりして、いじめをうけてきたけれど「私は私」という考えをしっかりとち、自分の人生を進んでいます。読んでいて元気をもらえ、自分は自分でいいんだと思えるのでとてもおすすめです。

(甲南高校2年 吉岡 悠妃さん)

14 『アリス殺し』 小林 泰三 著／丹地 陽子 装画／藤田 知子 装幀

東京創元社（創元推理文庫）

不思議の国の住人たちが次々と殺されていく悪夢ばかりを見る主人公。それとリンクするかのように、現実世界でも彼女の仲間が突然死ぬ怪死事件が相継いで起こる。この二つの世界の関係性とは…？アリス「殺し」と聞くと少し物騒なイメージをもつかもしれませんが、アリスの話を知らなくても楽しめるし、過激な表現も少なめなので読みやすいと思います。どれだけ注意して読んでも騙されること間違いなしです！

(守山高校1年 木村 志穂さん)

15 『星の王子さま』 サン＝テグジュペリ 著／河野 万里子 訳 新潮文庫

本作は「大人と子供」が一つのテーマではないかなと思いました。「本当に大切なものが見えていない大人」を繰り返し描かれている中で言われる鋭い言葉。私たちが「大事なこと」だと思っているものは、本当に大事なものと考えさせられる内容でした。そして仕事や学校、暮らしに追われている現代人の私たちに「本当」を知る心の余裕や時間を作ることの大切さを教えてくれる本だなと私は思いました。すごく心に響く本だと思います。

(能登川高校 2年)

16 『新訳 星の王子さま』 サン＝テグジュペリ 著／倉橋 由美子 訳 宝島社文庫

※現在入手困難な本です。お近くの図書館等でお探してください。

この本は、主人公が他の星からやって来た「星の王子さま」と出遭うお話です。大人とは何か、人間とは何かを主人公と「星の王子さま」との会話から考えさせられます。子どもの頃体験した初めての感情を忘れていませんか。「大人って不思議」と思った過去が蘇ります。今、子どもの方にも大人の方にもぜひ一度は読んでみてほしい作品です。この物語を読み、共感を覚えた方はすでに「大人」に近づいた存在なのかもしれません。

(草津高校3年 大籠 夏鈴さん)

17 『スマホを落としたただけなのに 囚われの殺人鬼』 志駕 晃 著 宝島社文庫

この本は、自分の持っているスマホがどれだけ危ないものなのかを分からせてくれる本です。書名にもある通りスマホを落としてしまった、見られてしまった、それだけで大きな犯罪や事件に巻き込まれてしまう恐ろしさを改めて知ることができます。現代の社会ではスマホの普及率も非常に高くなっているのでそういった時にこそみんなに読んでほしいなと思いました。そしてスマホがどれだけ怖いものになるのか知ってほしいなと思いました。

(長浜北星高校1年 二矢 侑樹さん)

18 『スマホを落としたただけなのに』 志駕 晃 著 宝島社文庫

麻美の彼氏である富田がスマホを落とし、それが凶悪なクラッカーに拾われることで始まる物語。そのクラッカーがネット上の情報を駆使して、そのスマホから麻美の正体を暴いていく過程はリアリティに富んでいる。さらにこの物語の最後には、読者の想像を超える衝撃が待ち受けている。この物語は、誰もがスマホを持っているこの時代を生きる私たちにとって考えさせられるものであります。是非読んでみてください。

(守山高校1年 秋永 光翼さん)

19 『バムとケロのもりのこや』 島田 ゆか 作・絵 文溪堂

この本はバムとケロが森にきいちごをつみに行き、古い小屋を見つけ、誰も住んでいない小屋をひみつの小屋に修理するお話です。バムとケロがソレちゃんの協力を得てのんびりとひみつの小屋を作る姿がとてもかわいく、カビだらけのお菓子を食べようとするケロが愛らしいです。絵も細かく、1人1人の行動や気持ちが読み取れて、絵もお話も楽しんで見れるような絵本だと思います。友達の大切さや優しさを学ぶことができると思います。

(甲南高校2年 菅沼 莉央さん)

20 『小説 Fukushima 50』 周木 律 著 KADOKAWA／角川文庫

『Fukushima 50』をオススメしたい理由は、東北を襲った震災の原発の現場で起こっていたこと、ニュースだけでは知ることが出来なかった詳しい情報を、胸が痛くなるほど知ることが出来るからだ。現場と政府のすれ違いが生じて、うまく行かなく命がけて原発と闘っている人に胸が熱くなる。そして、あの震災で津波から原子炉を命をかけて守ってくれた人々がいたことに感謝を伝えたいような本なので、ぜひ読んでほしい。

(能登川高校1年 板井 みづきさん)

21 『インスタ映えする戦国時代』 スエヒロ 著 大和書房

「Yahoo!知恵袋に相談する明智光秀」や「戦国時代のショッピングサイト楽市・楽座」などの見出しで、スマホ画面の画像と共に歴史について学ぶことができます。一見私たちの生活とはかけ離れているように感じますが、大名同士のやりとりは、現代でいうLINEのようなものだったのだと思うと身近に感じることができます。まるで、戦国時代にスマホを利用するような感覚で読み進めることができるので、とてもおすすめです。

(守山高校2年 川嶋 彩加さん)

22 『君の臍臓をたべたい』 住野 よる 著 双葉社

『君の臍臓をたべたい』というインパクトのあるタイトルに興味を持ったから読みました。私が印象に残った所は、桜良が自分の余命を知っているのにも関わらず、毎日笑顔で登校している所です。私だったら怖くて笑っていることができないので桜良の明るさや強さに感動しました。私はこの本から、毎日を全力で生きることを学びました。自分の人生もいつ尽きるか分からないのでやりたい事はしっかりやろうと思いました。

(守山高校1年 久米 彩稀さん)

23 『君の臍臓をたべたい』 住野 よる 著 双葉社

この本は、臍臓の病気によって余命宣言を受けている高校生、山内桜良と、桜良の病気について唯一知っているクラスメイト、僕の話。桜良の日記のような本『共病文庫』を僕が見つけたことから始まる2人のストーリー。余命宣言を受けた彼女と事実を知った彼がどのような生き方をしていくのか、命のあり方、大切さについて深く考え学ぶことのできる物語。また人との関わりなどについても新しい発見をくれる本だと思う。

(国際情報高校1年 垣見 ほのかさん)

24 『か「」く「」し「」ご「」と「」』 住野 よる 著 新潮社

住野よるさんは、『君の臍臓をたべたい』で有名ですよ。私は、この本もそれに劣らずとても面白いと思いました。この本は、男女五人それぞれが主人公です。一人一人少しだけ何かしら人の心が分かる特別な力を持っていて、その力があるからこそ、もっと知りたくなってしまう。もどかしいところが青春らしいです。読み返すと、その時のその人の行動の意味などが分かることが多くあり、何回でも読み返したくなる、そんな作品です。

(国際情報高校1年 尾畑 凜さん)

25 『砕け散るところを見せてあげる』 竹宮 ゆゆこ 著 新潮文庫

この本は高校3年生の清澄と高校1年生の玻璃の男女の物語です。正義感が強くヒーローにあらがれている清澄はある日いじめられていた玻璃を助けます。そこから2人は仲を深めますが清澄は玻璃がある事件に関与していたことを知ります。玻璃が言った「2人死んだ」というのはどういう意味なのか。この物語の衝撃で悲しい2人と事件の結末に涙してしまうと思います。ぜひ清澄と玻璃の運命を本で読んでみてください。

(守山高校1年 石井 愛夏さん)

26 『友人キャラは大変ですか?』 伊達 康 著／紅緒 イラスト 小学館(ガガガ文庫)

主人公。それは、物語の主役的存在。超常の力を宿し、悪と戦う。読者の憧れの的だ。この本で語られるのは、そんな主人公…ではなく、その「友人」のお話である。彼の名前は小林一郎。何一つ特徴のないどこにでもいる高校生だ。そんな彼の唯一の特技であり生きがい、それは「助演」であった。数々の友人キャラあるある、数多のアクシデント、そして予想外のどんでん返しの中、一郎は無事「主人公の友人キャラ」を全うできるのか？

(長浜北星高校2年 矢野 秀典さん)

27 『ホームレス中学生』 田村 裕 著 幻冬舎よしもと文庫

この本は芸人である麒麟の田村さんが、中学生の時に急にホームレスになってしまうというお話です。まだ中学生なのに、周りに迷惑をかけずに一人でがんばって生きていく姿にとっても感動しました。実際にあった話なので、現実でこんなことが起きることにびっくりする場面がたくさんありました。本当はしんどくて大変な話なのに、田村さんがおもしろおかしく書いているので、とても楽しい本となっています。

(草津高校 3年)

28 『優しい死神の飼い方』 知念 実希人 著 光文社文庫

この本は、死神がゴールデンレトリバーの体を借りて、地縛霊になりそうな魂を救うために奮闘するお話です。私はまず、このゴールデンレトリバーが可愛くてハマってしまいました。ホスピスという重いところを舞台にしているはずなのに、心が暖まるようで、ミステリーあり、ハラハラドキドキあり、笑いも涙もあるような、感動がつまった物語になっているので、ぜひこの本を読んで、死生観について考えてみてほしいと思います。

(彦根翔西館高校1年 西山 杏子さん)

29 『優しい死神の飼い方』 知念 実希人 著 光文社文庫

思い通りにいかない日々の中で、死期の迫った人間は何を心残りに思うのだろうか。この本の主人公レオは犬の姿をしているが、死後の人々の魂を「我が主様」のもとへ導く「死神」。ホスピスで働く奈穂に保護されたレオは、そこに入院する患者を次々に未練から救っていく。著者が現役内科医のため、リアリティのある描写も多く、ページをめくる手が止まらない。人間を下等だと考えていたレオの心変わりの様子にも目が離せない。

(守山高校2年 桧垣 夢奈さん)

30 『2分間ミステリ』 ドナルド・J・ソボル 著／武藤 崇恵 訳

早川書房 (ハヤカワ・ミステリ文庫)

『2分間ミステリ』は、11個の謎がつまった推理小説です。2分間で読めてしまうので少しの時間で頭の体操ができます。簡単な謎もあれば難しい謎もあるのでとても楽しいです。答えを知った後に本文を読みなおすと見逃していたヒントに気づいておもしろいです。この本のもう一つおもしろいところは、答えが天地逆に刷ってあるところなんです。本を逆さにしないと読めないのが謎に没頭することができます。

(長浜北星高校1年 下田 夢見さん)

31 『こころ』 夏目 漱石 著 新潮文庫

私はこの本をぜひ、高校生のうちに読んで欲しいと思います。人間関係の難しさ、自殺とは何なのか。主人公である「私」は学生なので、思いに共感できると思います。そしてまた、心についても考えさせられます。登場人物内で起こる出来事で1人1人の心情が文章に多く現れています。誰に共感して物事を見ていくかで、感じ方の違う話になります。そして最後に分かる衝撃の事実。あなたは誰の気持ちに共感しますか？

(大津高校 3年)

32 『店長がバカすぎて』 早見 和真 著 角川春樹事務所

この本は無神経に私を苛立たせる店長に日タイライラが止まらない書店員谷原京子が「マジ辞めてやる!」と退職届を靴に忍ばせながらも根気強く働き続ける痛快コメディ作品だ。店長や同僚に対しての溢れ出る怒りや鋭いツッコミなど主人公の胸の内がストレートに書かれていて谷原京子の内面を覗き見しているかのようで楽しい。きっと作品中で谷原京子がよく飲んでいた喫茶店〈イザベル〉の黒豆ココアが飲みたくて仕方なくなる。

(守山高校1年 西村 百々花さん)

33 『ぼくたちの家族』 早見 和真 著 幻冬舎文庫

脳のガンが母から見つかり、「余命一週間」と宣告される、母、父、息子2人の4人家族の物語。今まで家族として機能していなかった家族が一週間という短い期間の中で母を救おうとする。しかしそんな時に父の借金が暴かれる。その大きな苦悩を家族一人一人が自分にできることをして、家族一丸となって乗り越える心温まる作品。自分がもし母親や父親、息子たちの立場だったらどんなことができるだろうと考えさせられた。

(守山高校1年 田畑 愛優さん)

34 『マスカレード・ホテル』 東野 圭吾 著 集英社文庫

あなたには、「合わない人」はいませんか。人を「疑う」ことが仕事の警察官と、人を「信じる」ことが仕事のホテルマンという正反対の2人がバディとなり、連続殺人事件に挑む物語で、2人は衝突しながらも、お互いに理解し、成長していきます。自分の周りにいる「合わない人」は自分と違う視点を持っているはず。異なる視点が合致したとき、今までにない世界が現れます。「正反対」が噛み合い、つながる過程がわくわくします。

(守山高校1年 小椋 寛太さん)

35 『パラレルワールド・ラブストーリー』 東野 圭吾 著 講談社文庫

この物語は普通の恋愛小説と違い、パラレル世界をベースにしているため複雑になっており序盤は内容が理解できないまま物語が進んでいく。しかし、物語の後半になると、どんどん伏線が回収されていくため序盤に抱えていた謎が解けていく瞬間がとても面白い。また登場人物達の裏切りや憎さ、欲望など人間の本质が描かれているため自分と照らし合わせながら読むこともできる。読む度に新たな発見をすることが出来るので是非読んで欲しい。

(国際情報高校2年 久保 結菜さん)

36 『フォルトウナの瞳』 百田 尚樹 著 新潮文庫

この本の主人公、木山慎一郎は幼いころに家族を火事で失いずっと一人で過ごしていた。そんな日々に突然「人の死ぬ前」が見えてしまう能力が身についた。そこで彼は、死がせまっている人を救いたいと思い、自分の命まで危険にさらしてしまう。この題名の「フォルトウナ」とは運命の女神という意味です。もし、あなたがこの力を持ったらあなたは どうしますか。人の死を助けますか。とても考えさせられる作品です。

(能登川高校 2年)

37 『死を見る僕と、明日死ぬ君の事件録』 古宮 九時 著

KADOKAWA／メディアワークス文庫

「僕」は人の死を予告する幻影を見ることができる。また、「僕」は唯一過去の事故のことだけを覚えている。そして「僕」が死を予告した人は死の運命から絶対に逃げられない。この本はそんな僕が女子大生の「君」との出会いをきっかけに人の死の運命を変えていく物語です。物語終盤ではそれまで謎だった僕の正体が明らかに。次のページに進むときにドキドキしてしまう本なのでオススメです。

(守山高校1年 金子 皓史朗さん)

38 『15歳のテロリスト』 松村 涼哉 著 KADOKAWA／メディアワークス文庫

「ボクはテロリストだ。」15歳の少年、渡辺篤人は何故テロリストにならなければならなかったのか。少年犯罪を題材としたこの作品では、日本の少年法のあり方について考えさせられました。テロの裏にあった衝撃の真実に読む手が止まりません。最後、渡辺篤人が自分の中の葛藤と闘う姿にあなたもきっと涙するでしょう。被害者、加害者それぞれの苦悩がリアルに描かれていて、何が正解なのかと考えさせられる作品でもありました。

(守山高校1年 西川 えみりさん)

39 『三日間の幸福』 三秋 縊 著 KADOKAWA／メディアワークス文庫

自分の寿命に値段をつけるとしたら。百万、千万、一億、またはそれ以上と答える人も居るかもしれません。寿命の価値、というのは命の価値とあまり変わらないように思います。勿論価値なんてつけようがありませんが、もし価値を監査して、値段をつけられ、それを売ることができたなら。そしてその価値が自分の思っていたよりはるかに低かったら。これは自分の寿命1年につき1万円の価値をつけられた男の話です。

(能登川高校 2年)

40 『三角の距離は限りないゼロ』 岬 鷺宮 著 KADOKAWA／電撃文庫

これは二重人格の転校生とその子に惹かれる男子生徒の一風変わった三角関係の物語です。とても読みやすく自分の中に入ってきやすい文体で、どんどん読み進められました。この作品では様々な恋心と共に、自分の個性を隠してしまうことや自分を演じてしまうことなど、思春期特有の悩みや辛さ、葛藤についても書かれていて、共感すると同時に今の自分の状況や性格についても考えるきっかけになると思います。是非読んでみて下さい。

(守山高校1年 長谷川 朝洋さん)

41 『夢をかなえるゾウ』 水野 敬也 著 文響社

この本はインドのガネーシャという神様が1人のサラリーマンの前に現れ、毎日1つずつ課題を出して男性を成功に導くという話です。しかし課題というのは本当に簡単なものばかり…。男性は本当に成功できるのでしょうか。この本を読み終えると、日々の生活から学べることも多く、1つ1つの積み重ねが大切だということを感じることができます。そして何より努力することは楽しいことであると思わせてくれる本です。

(守山高校1年 端山 菜南さん)

42 『向日葵の咲かない夏』 道尾 秀介 著 新潮文庫

夏休みを迎える終業式の日、友人S君の家でS君が首を吊って死んでいるのを目撃してしまう主人公のミチオ。しかし、S君は次の日忽然と姿を消してしまう。この小説は死んだ友人の死体の在処を探し、「誰に何のために殺されたのか」事件を追うミステリーホラーです。思わず背筋がゾッとするシーンも多く、向日葵の咲く暑い夏に読むことを強くオススメします。

(長浜北星高校2年 川森 咲花さん)

43 『豆の上で眠る』 湊 かなえ 著 新潮社

小学生の夏、お姉ちゃんが消えた。その、まるで神隠しのような事件には秘密があった。十三年の年を経て大学生になった妹である主人公が、あることをきっかけにして、深い深い当時の事件の様子を思い出し、真相を確かめるそんなお話です。本のタイトル、『豆の上で眠る』はグリム童話が元となっていて、読み終わったあと、タイトルの意味がわかります。最後の主人公の問いかけ、「本ものって何ですか。」がとても切ないです。

(八幡商業高校1年 尾崎 莉那さん)

44 『豆の上で眠る』 湊 かなえ 著 新潮社

この話は、ある家族の姉妹の姉が誘拐されることから始まるミステリーなのですが、姉が無事に戻ってきた後から、ミステリー展開となる、少し変わったストーリー展開になっています。姉を探す中で出てくる母や友達の性格であったり、まわりの反応がとてもリアルに表現されており、人間性というものを感じさせられました。姉への違和感の正体がわかり、話のラストを迎えたのに、残る気持ち悪さや心のざわつきをぜひ体験して下さい。

(国際情報高校2年 中西 真唯さん)

45 『少女』 湊 かなえ 著 双葉文庫

この本の主人公は人が死ぬ瞬間に立ち合いたいと考えている二人の女子高生です。二人は友人ですが互いにその思いは隠したまま、別々の方法で目的を果たそうと行動していきます。死をテーマにした物語には死ぬシーンが付き物ですが、この本の中では死ぬ瞬間は描かれていません。それよりも少女二人が周囲の人に対して思うことや心情の変化が細かく書かれており、人間の生々しさや死の重さをつきつけられるような作品だと感じました。

(守山高校1年 奥田 晴菜さん)

46 『リバーズ』 湊 かなえ 著 講談社文庫

主人公の深瀬和久は穏やかな生活を送っていましたが、ある日深瀬の彼女のもとに、「深瀬和久は人殺しだ」と書かれた告発文が届き話がはじまります。この話は深瀬が過去に友人であった、広沢由樹の死についての物語です。この本の題名は『リバーズ』ですが、題名の通り、最後の一行を読んでその結末に驚くことは間違いありません。この衝撃を味わいたい方は是非『リバーズ』を読んでいただきたいです。

(守山高校1年 加藤 奏さん)

47 『続ける脳 最新科学でわかった！必ず結果を出す方法』 茂木 健一郎 著

SB クリエイティブ (SB 新書)

この本は脳科学者の茂木健一郎さんが物事を続けることのメリットと続ける方法について述べたものである。偉人の成功体験や童話を具体例に挙げ、「続ける」という抽象的な事柄を分かりやすく解説しているので、読んですぐに実行できる。私が今、勉強や部活で悩んでいることの解決策をまさにこの本が提示してくれた。私と同じように悩んでいる学生はもちろん、すべての人に当てはめることができる、物事の成功へのカギが詰まった本だ。

(守山高校2年 藤本 千穂さん)

48 『ジョーカー・ゲーム』 柳 広司 著 KADOKAWA／角川文庫

結城中佐を中心とする陸軍のスパイ組織「D機関」の話で、そこに属するスパイは誰も彼も優秀な一般人である。この本は、その中でも数人だけを取り上げており、その誰もが一挙一動すべてが何かの伏線であり、最後の最後にすべてが回収され事件が解決される様が感動する。特に、結城中佐の言動には注意して読んでほしい。みなさんも、点と点がつながる感動を味わってほしい。この本はもう一度読み返すとさらに楽しめる本でもある。

(守山高校2年 谷川 隼さん)

49 『ぼくは勉強ができない』 山田 詠美 著 文春文庫

「コイツ、勉強はできないけど、頭の回転は速いな」ってヤツ、たまにいませんか？主人公の時田秀美はそういうヤツです。勉強はできないけど、男から憧れられ、女からはモテる。一見、薄っぺらくチャライ高校生に思えるけど、実は自分の軸をしっかりと持ち、小学生の頃に先生を論破しちゃうほど賢いヤツなのです。読んだあとは、柔軟な考えを持つ秀美にスカッとさせられるかも。高校生のうちに読んでおきたい一冊。

(守山高校1年 李 佳音さん)

50 『なんくるない』 よしもと ばなな 著 新潮文庫

もっと楽に生きようと、この本を読んで心からそう思いました。私は前に、修学旅行で沖縄に行ったことがあります。そのときに思ったことは、沖縄は時間の流れが全く違うように感じました。この小説は沖縄が舞台になっています。読んでいるといつの間にか自分自身が沖縄に行っているかのような感覚になり、いつの間にか緊張がほぐれていってしまいます。物語に引き込まれていきます。

(長浜北星高校2年 西岡 潤之介さん)